

## 図書館利用者と練馬図書館長との懇談会

- 1 日時 平成 30 年 10 月 27 日（土） 10 時 30 分～12 時
- 2 場所 練馬図書館 会議室
- 3 参加者 利用者 15名  
図書館 5名  
(練馬図書館長、副館長、事務局、図書館主任専門員 2 名)
- 4 テーマ 「私が練馬図書館に望むこと」
- 5 配付資料 (1) 教育要覧（図書館部分抜粋）  
(2) 練馬区立図書館ビジョン（概要版）  
(3) 図書館だより（第39号）  
(4) 練馬区立図書館利用案内  
(5) 利用者アンケート（平成29年11月実施）
- 5 次第 (1) 練馬図書館長挨拶  
(2) 図書館職員紹介  
(3) 図書館概要説明  
(4) 懇談

### 図書館利用者と練馬図書館長との懇談会 会議録

#### 1 練馬図書館長挨拶

時間となりましたので、これから平成30年度練馬図書館利用者と館長との懇談会を始めさせていただきます。

最初に、資料の確認をさせていただきたいと思います。

(資料確認省略)

本日の懇談会ですけれども、この一番上の紙、次第に沿って進めさせていただきます。

こんなにたくさんの方にご参加いただいたわけなのですけれども、ご参加いただいた皆様に一言、自己紹介をいただいた後、図書館の概要について私の方から説明させていただきます。そのあと、懇談会に入りたいと思います。

図書館サービスに関するご意見、ご要望ということで、自由な、気楽な感じでどんどん発言していただいて構いませんので、よろしくお願いします。

あと一つ、練馬区立図書館全体に関すること、図書館システムをこう直したい、ああ直したいということとか、練馬区立図書館全体に関することになりますと練馬図書館だけではお答えできない部分が出てしまいます。

その場合は、今日出た質問に関しまして、光が丘図書館にその内容を伝えますので、後日、ホームページを通じて、練馬区立図書館全体の考え方を回答させていただきたいと思っていますので、その点はご了承くださいと思います。

最後に、会議録の作成をする必要がございますので、真ん中に録音の機械を置かせていただきます。よろしくご了承くださいと思います。

## 2 図書館職員紹介

練馬図書館副館長 主任図書館専門員 2 名 事務局

## 3 図書館概要説明

- (1) 練馬図書館の沿革
- (2) 練馬区立図書館ビジョン
- (3) 開館時間
- (4) 所蔵資料数、利用状況等
- (5) 運営体制
- (6) 実施事業
- (7) 平成29年度利用者アンケート集計結果

## 4 懇談会

利用者 私から。

図書館 どうぞ、よろしくお願いします。

利用者 質問させていただいてもいいでしょうか。まず、この部屋ですけれども、ここは冷房等が入っているのですか。扇風機はあるのですけれども。

図書館 一応、空調の機械はあります。ここの真後ろの黒いボタン、あれが空調です。この建物ほとんど一体の空調なのです。

利用者 冷風機がありますか。

図書館 ですから、当然のことなのですが、夏は冷房、それで、地下の機械室を季節の変わり目に切り替えて、そろそろ暖房の時期ですね。今は、確か暖房に切り替わってしまった時期なので、今、黒いスイッチを押すと暖房が出てきてしまいます。一応、冷暖房はついています。

利用者 それで、何で私がこのようなことを言ったかという、しょっちゅう来ているわけではないですけれども、ここで小さい乳幼児の方とか、お母さんが来て何かいろいろとやっていたらいいですね。ドアが開いていると、特に子どもの声がうるさくて非常に響いて、ドアを閉めるだけでもそれは違うのでしょうけれども、ここには空調がないのかなと思って、それで確認して聞いたわけです。

図書館 そうですね。確かにドアを開けてやっていることが多いですね。

利用者 非常にうるさいですね。それが利用者としてはまず1点。

2点目が、非常に新聞の閲覧の後ろあたりが何か照明が暗いと感じます。それで、年に何度かは規定の照明かどうかこちらでチェックはしているのでしょうか。普通、図書館というと本を読んだりしますよね。そこで、特に今、高齢者が多いので、白内障になりかけているような人もいますし、非常に本がなかなか読み辛くなってくるのです。そういう意味で、多照のタイプの通常の標準以上の明るさにしてほしい。

図書館 はい。

利用者 それはチェックはどうなっているのかという。

図書館 照明の検査まではしていない。正直なところ、何ルクスという細かいチェックまではしきれていないですね。

利用者 よく、時期によって、そのケーブルを消したりされていることが結構あると思います。新聞の閲覧の後ろあたり。1回だけ、明るくしてくれないかと言ったことがあります。特に、新聞などは非常に字が小さいので読みづらいので、図書館全体が明るくないと、高齢化社会ですから、できれば十分、その辺も考えていただきたいと思います。

図書館 はい。

利用者 それと、これは蛍光灯ですか。これも、最近はやりのLEDとかに替えてい

ただいて、省エネシステムに替えていくとか、そういう予算をつけるとか、そういうことも必要ではないかと私は思っています。あと、3点目。これでおしまいです。

図書館           どうぞ。

利用者           私が分からないので申し訳ないのですがけれども、図書を返す場合、ここは図書返却ポストがありますよね、何か所か。駅にはあるのでしょうか。

図書館           駅にはございません。

利用者           なぜ、置いてないのでしょうか。

図書館           設備を設けることは予算もかかることでもありますので、当然のことながら場所を確保しなければなりません。当然、駅の敷地ですので、鉄道会社に了解を得ないと何でもかんでもつくるわけにはいかないと思います。

利用者           ココネリはどうですか。

図書館           図書館案内という資料がありますよね。めくって開いていただいて、中に1枚ぺらっと紙があります。これが、現状の練馬区立図書館で、まず表面が12館、ひっくり返していただいて、練馬区立図書館受取窓口一覧、これが今、練馬区で設けている図書の受取窓口。返却とか予約して貸出を受け取るとかができる受取窓口を設けて、練馬区ではこの6か所というのが現状なのです。

利用者           今の時代、私は、どちらかという線路の向こうから来ているので、返すのにいちいちここまで来なければいけない。

図書館           なるほど。

利用者           昔から、小学生のころから、図書館には線路を越えて、目白通りを越えて、ようやくここにたどり着くという。せめて返すときぐらいは、駅の近くにポストをつくって返しやすいうようにした方が、利用者からというのは非常に楽というか、ここまで来なくていい。そういう利便性があるのではないかと思います。意見として出しました。その意見に対して、場所がない、それと必要性がない。

図書館           必要性がないとは言っていません。予算的な問題も。

利用者           その予算は、そんなにかかるものですか。

図書館           そこまで詳しいことは、光が丘図書館に確認しなければいけないですが、練馬図書館だけで動いて、あそこにすぐ窓口とかポストとかを設けると

というのは、なかなか難しいですね。中心的機能を持っているのは、光が丘図書館です。ですので、光が丘図書館と相談しながら話を進めないといけないですね。

利用者 それはお金もかかることなので。でも、利用する側とすれば、利便性を考えて、サラリーマンの方も、いちいち途中下車するのは大変だから、電車を降りて置いて、帰りの駅で置いていくと、そういう利便性があるので、お金がかからないのであれば、ぜひやっていただきたいです。

図書館 ご意見として確かに承ります。

これを見ますと、大泉学園駅とか石神井公園駅とか、駅の中ではないですけども、確かに駅近のところには、もちろんあれば便利ですよ。

利用者 それは、恐らく練馬区の職員の方も感じている方は結構いるのではないかとと思うのです。積極的に、館長、やってくれませんか。

図書館 はい。今日、ご意見は確かにしっかり承りました。

利用者 今、出ていたココネリだと、結構、練馬図書館だけではなくて、ほかの図書館の方もいいのではないですかね。

図書館 なるほど。

利用者 ココネリには、区の施設というか、あれですけども、区で借りられる場所ではないですかね。

図書館 分かりました、ココネリですね。確かに承りました。すぐにやりますとは言えないですが。

利用者 そういう意見があるということです。

図書館 はい。確かに承りました。

利用者 利便性ね。本当に遠いのです。私は、今は中村に住んでいるけれども、昔は練馬一丁目に住んでいました。子どものころは、そんなに遠いと感じなかったけれども、こうやって歳をとって、早歩きで来たけれども、結構あるね。20分は歩きます。頑張って20分。だから、駅辺りにあれば10分からそこで行けるので、そういうことで私の意見を出していただきたいと思います。

図書館 はい。ありがとうございます。

利用者 区役所の中とかはどうですか。

利用者 区役所はいいのではないですか。どうなのでしょう。

統計をとっているかも知れませんが、直接返す場合と、こういう窓口で、例えば、職員がいないと、あとで職員につなぐと思うのですけれども、そこに返すのと、図書の損傷やいたずらと言いますか、そういうものがどのくらい違うのか。何ら変わらなかったら、区役所や公共施設にどんどん、自由に返せる場所がつくれればいいと思うのですけれども。ただ、あまり損傷とか、いたずらが多い場合には考えないといけなくてはならないというようなことも、基本的に考えなくてはいけないのではないですか。両面を。ただ、便利だからいいというだけではなくて。

利用者 意図的に本を損傷をさせるという人は、いないと思いますけれども。

利用者 だから、それはないのが当たり前ののですけれども、そういうこともあり得るということも考えて、みんなが利用することですから、そういう多角的な面を考えて、よく慎重に図書館側としては考えていただきたいということを、私の意見として。

図書館 はい。ありがとうございます。

利用者 いいですか。私が借りる本は割と練馬にないのです。光が丘から取り寄せますということで、少し待ってください、連絡しますと。そういうところで返すと、回収が毎日ならいいけれども、週に何回かだと、せっかく光が丘で借りた本をそのポストに返して、練馬図書館まで来るのに、そうすると借りたいと思う人は、それだけ長くなりませんか。

図書館 お話しが長くなって、もう少し言うと、先ほど言った受取窓口は、無人ではなくて職員がいるのです。ですので、小さいカウンターに一人で、箱がぽんと置いてあるだけではないです。受付の職員が1人、小さいカウンター、あと、後ろの方に本がいっぱいというような状況で、きちんとした場所を確保しているので、なかなか受取窓口も簡単にあちこちに、ぽんぽんつくっていきけるという状況ではないということを一つ、お伝えしておきます。

それと、受取窓口は、メール便というトラックが区内の図書館をくるくる回っていて、今お話しがあったように、本を循環させておりまして、受取窓口についても毎日です。毎日1回、図書館の間をトラックがくるくる回っているのです。本をやり取りして、皆様の予約の本をご希望の図書館に準備して、皆様に提供しているというような形でやらせていただいております。

というのが現状です。

それで、今お話しにありました本の傷とか傷みとかというお話しですけども、もちろんごく少数ではありますけれども、本が汚れてしまったというのが、返却ポストにぽんと入っている。ごく少数ですけども、たまにはあります。という場合も、図書館の方で見させていただいて、貸出するときからこの状態でしたでしょうかみたいな確認は、その方にさせていただくときもあるのです。というのは、実情はあります。もちろんごく少数ですけども。そういった点も考えながら、こちらの方は皆様に迷惑がかからないように、きちんと資料を提供させていただく体制を整えているという努力はしているということで、お話しさせていただきました。

どうぞ、自由に何でもおっしゃっていただいても構わないのですけれども。どうぞ、何かあれば、お願いいたします。

**利用者** さっき、高齢化社会だというお話しが出ましたけれども、図書館を利用されている方でご高齢の方は多いと思います。一見してお体の状態が悪いとか、生活状況がどうなっているのか心配だなというような方とか、図書館の利用ということで気になる方とかいらっしゃいますでしょうか。

**図書館** いろいろな方がいらっしゃいます、確かに。どう言えばいいですかね。一見すると、図書館を利用される方は、小さいお子さんを連れて来られたお父さん、お母さんはこちらの児童コーナーを中心にご利用いただいていて、普通の一般の方については、ぱっと見た感じ高齢の方が多いのかなと。あと、机があるコーナーでは、結構、私は最初、意外に若い方も夕方以降は結構いらっしゃるのだなというのがありますが、ご高齢の方が割合多いかなとは思っています。

いろいろなご意見をいただきますよね。ぶっちゃけた話で言ってしまうと、多いのは、あの方のにおいがきついとか、においは困るのですよね。いろいろなほかの図書館の実例とか、どう対応するのが正しいのか考えたりしたのですけれども、においがかなりきつくて、これは明らかにおかしい耐えられないくらいのレベルまでいったらお声掛けするくらいかなと。お風呂に入っている回数が少なくて少し臭いかなという程度だったら難しいですよね。

**利用者** ご本人に対してのお声掛けは、ある一定の限度を超えた場合は、あるのだと

思うのですけれども、その方に関して、例えば、ほかの公共機関であるとか、心配な方がいるとかというご連絡というのは、図書館としてはありますか。

**図書館** はつらつセンターさんであるとか、デイサービスセンターさん。前は、連絡とかをさせていただいて連携をとった事例は本当にあります。

マナーがいかがなものかというおばあちゃんがいたりして、そういった方について、ご相談したりして、連携して、今度そういった方が来なくなってしまうと心配になってきたり。そういったこともありますけれども、こちらからご相談させていただくことはありますので。

**利用者** ぜひ、包括支援センターにご連絡いただけましたら。

**図書館** こちらこそ、ぜひよろしくお願いします。最近、あのおばあちゃんはまた来るようになって。

**利用者** 最近は来ていないじゃないかな。

**利用者** お見えです。

**図書館** あのおばあちゃんは、また来ると、新聞読んでいますよね。

**利用者** におうときもあるけれども、別に悪いことをしているわけでもないしね。

**図書館** においは本当に微妙なのです。お声をいただきます。前に座ってられないとか、近くにいられないとか。私もそばまでは行くのです。私は、実は鼻が悪くてにおいがあまり強く感じないのか、臭いかなというくらいで。そういうときは、本当に言い方に困っています。

**利用者** 80歳くらいですかね。80歳前後くらいの、個人のことでですからあれですけれども。拒否はできないよね。

**図書館** 基本的には、なるべく退場宣言とかはしないです。しないのが本来の図書館だろうというのが、この中での職員での認識なので、退場とかそういったことを私は言ったことないです。別の図書館長が、大分前ですけれども、3人くらい退場させたと言っていた人がいたのですけれども、それもかなり昔の話であって。私は、今のところはおかげさまで。

話は脱線するけれども、ほかの図書館だと結構、お客さん同士がけんかをしたりとか、何かもめているとか、結構、そういったトラブル事例が上がってくるのですけれども、ここの図書館はおかげさまで本当にはないのです。私は、本当に助かっているのです。正直。



利用者 図書館長は、ここでも何年くらいやっていますか。

図書館 まだ1年半です。

利用者 まだ、1年半じゃね。

図書館 でも、ほかの図書館を見ると、またもめているのかという話しが結構、出てきているので。

利用者 年寄りには切れやすいのです。私もそうだけど、すぐ切れるのです。それで、先ほどのにおいの話しではないけれども、本人は全然分からないのです。それが。はっきり言って病気です。だから、かわいそうだけど出ていって欲しいということは言えないと思うけど。それは当然ですよ。

図書館 ありがとうございます。皆さんの声も聞いて、あまりにひどい迷惑でないようだったらあり得ますけれども、その都度、その都度、その場、その場で、判断して考えていくほかないかなと思っています。

それと、包括センターさんとか、地域のいろいろなセンターさんの資源を利用して、こちらにも助けを求めるといった感じになるのですが。

利用者 ご連絡いただければ介入。ご本人に、例えばこの間、徘徊といったところで、図書館を利用されている認知症のご高齢の方がいまして、貫井図書館なのですけれども、そこによく行っていらっしゃる。

私たちは、近隣からの通報で、その方に関与を始めて、ただ電話がないのでご本人にお会いするのは直接、家に行くしかないということ。あと、図書館によく行くという情報が入っていたので、貫井図書館に伺わせていただいて、館長様にもこういう方がいてというお話をした。

ただピンと来るわけ。私は、この方の個人のお名前は出しませんでした。こういう方がいるのですけれどもと言ったら、そちらの館長もピンときて、館長も、もちろんお名前は出しません。ただ、そういうような方がもし来館したときに、介護保険上で、どうしてもお会いしなければならない場合がございまして、ご連絡いただけませんか。ただ、本当であれば、お名前を明かしてやりとりできるのが、そういう生活上の危険性であるとか、そういったところが高い方、支援が必要な方というところを考えれば、そういったとお名前を明かしての情報のやりとりというのがあるといいのではないかと思います。その辺のところは、ご検討させていただきたいと思います。

図書館　　そうですね。今の時代は個人情報にも配慮しなくてはいけないので、なかなか難しいですけれども。そういった点も配慮しながら、ぜひ必要なときはご相談させていただきたいと思います。

利用者　　お願いします。

利用者　　今の強い人の話しはわかったのですけれども、ただ、高齢の方は大勢、新聞を読んでいらっしゃるけれども、何となくあそこは通りづらいのです。こちら側を通るのです、私は。新聞を読んでいるところ。

図書館　　横ということですか。

利用者　　向こうのコーナーの。私は、コーナーを通過して向こうに行くのですけれども、結局、私にもあると思うのですが、気をつけて図書館に、そういう意見がいっぱいあるから来なくてはいけないのですけれども、植木を置いてみたり、空気清浄機までは置かなくても、病院などに置いてある小さいストーブ状のああいうものを置いてみたり、特別な方はしょうがないですけれども、そういう配慮。それから窓を開けるとか、今日みたいに、ここは酸欠に感じます。私にしてみればすごく息苦しいのです。

　　そういった図書館の中の空気の入替えとか、そういうのでも風通しをよく、換気してあげる、植木を置く、私は、今日は図書館に行くから、においがあってはいけないから、上着だけを替えるとか、そういう気持ちにさせて、気を重くさせてはいけないですけれども、ホテルまではいかないけれども、小ざれいに図書館をしてくれたらば、みんなもそれぞれ、一人ひとりが、強い人はあれなのですけれども、2年くらい前に、私は、図書館で書類を書いていましたら、机がべたべたで、2、3日前に夜8時頃に来たら、つるつるしていましたから、きれいになったなと思って。べたべたで字を書くのに紙をひいて、こういうところの、そういった気遣い、そういったものが図書館側も必要ではないかと私は思います。

　　それから、もう一つ、孫に本を読んであげるのに、小さいテーブルで5、6人、それぞれ2人ずつでいっばいで、小さな声で話さないとな隣の子が迷惑なのです。あれは、何かいい方法がないのかなといつも思うのです。孫も気が散るのです。狭いところで6人くらいがひしめき合っていますから、アンパンマンを。ですから、ああいう心遣いもあったらいいなと思うのです。

図書館

はい。ありがとうございます。

1点目の環境のことですね。空気環境であるとか、清潔さであるとか、そういった点は、本当にこちらも十分に注意しなければいけないと思う点ですので、空気環境などもなるべくこまめに。あと、カウンター職員からの声なども聞きながら、こまめにきちんと対応していかなければいけないかなと思います。

あと、2点目の児童コーナーですよね。児童コーナーは確かにテーブルが小さいです。小さいテーブルに、小さいお子さん用の椅子を8つ置かせていただいている状況です。もう少し広いスペースをとれば、本当にいいかと思うのですけれども、こちらも、今日のご意見として確かに承らせていただいで考えさせてください。

何分、この会議室にしてみても、これだけのスペースしかとれないというのが、こちらの今の練馬図書館の現状でして、考えさせてください。何かいい対応がとれればと思います。ご意見として、きっちりこちらの方も承らせていただきます。

利用者

よろしくお願いします。

図書館

ありがとうございます。

利用者

よろしいですか。

図書館

どうぞ。

利用者

今、高齢者の施設の方からのお話に近いこととして、私は主には子どものことばかりをやってきたのですけれども、ここしばらく視覚障害の方の団体と連絡がとれる立場と言いますか、そういうようなことがありまして、こちらには対面朗読室があると思います。

今、館長さんがおっしゃってくれている、この利用案内のページに、視覚障害者サービスとして貸出対面朗読などが書かれていて、実施館が光が丘、練馬、石神井、平和台、大泉、関町、貫井、春日町になっています。それで、私が主に視覚障害の方たちのためにボランティアをしている団体が使っている図書館は貫井図書館ですけれども、練馬図書館の対面朗読室など、視覚障害のある方たちのための活動内容みたいなことを教えていただけたら、その団体の皆さんと、練馬図書館は今はこのような感じということを経営共有が

できるなと思って、それもあわせて聞きたいなと思って今日来たのですけれども。対面朗読室の状態を教えてください。

図書館 対面朗読室は、この隣なのですけれども、もっと狭い。

利用者 知っています。はい。

図書館 現在の利用状況としては、大体、週1回くらいですかね。あれは大体、決まったボランティアの方が一緒に見えられて。

利用者 ガイドボランティアの方ですね。

図書館 ガイドボランティアの方が一緒に見えられて。大体2時間。

利用者 1コマです。2時間というのは1コマですよ。対面朗読の。

図書館 2時間利用されて、もっとゆったりされて少しお茶を飲んだりして、それで帰られるという。

利用者 でも、使われているわけですよ、週1回は。その方が主に使われている。

図書館 そうですね。週1回です。

図書館 予約がとられていて、当日に来ないと体調の関係もあってキャンセルになることもありますけれども、それが週1回とかはとっている感じで、その期間や時期にもよるのですけれども、多いときは週1回とかで、少ないときは月に2回くらいという感じになっています。

利用者 そうですか。対面朗読室が練馬図書館にあるということをご存じない方たちは結構いるのかなと思ったりします。貫井図書館は対面朗読室が前は1室だけでしたが、それこそ館長さんがいろいろなことを走ってくださって、二つ目のお部屋ができたのです。なので、貫井図書館は、視覚障害の方たちにとって対面朗読室がある、そこも頻繁にと言いますか、結構、手厚い朗読サービスをしてくれるというような情報がきっとあるのかなと思っているのです。

それで、光が丘の対面朗読室も、中には入れなかったのですけれども、こうやってみてこの部屋かみたいな感じだったのですが、練馬図書館に對面朗読室があるという情報の情報が何だかあまり行き渡っていないのではないかなと思っています。

それで、この実施館の感じを見ますと、この近辺だと例えば、小竹はもちろん小規模館だから当然ですけれども、対面朗読室はないし、近いといっても確かに貫井図書館は近いし、その先にある春日町にも対面朗読室はあります

けれども、少なくとも小竹と練馬図書館との、地域のパイプというか面積のようなことを考えると、この近辺の目の不自由な方、もしくは読み辛くなった方などにとって、練馬図書館の対面朗読室はもっと活用されてもいいのではないかなと思いつつ、このごろ、そういうことを考えます。

練馬区の図書館は12館あるということはわかっているのですが、中には小規模館も入っての12館だと思いますし、この実施館の地域性を考えても練馬図書館の対面朗読室はもっと大切に使われて、広く情報共有をされていると思います。それこそ今、生涯学習センターの館長さんもお見えになっていて、こちらにはホールの方には、結構、元気な高齢な方たちだと思うのですが、お出でになっていろいろなことをなさっていて、でも同じ敷地の中の、図書館の目の見えない方たちと高齢の方たちと一緒にくたにするのは、また話しが違うとは思いますが、弱い立場の方たちのための大切な施設が確保されているということがもう少し届くといいのではないかと思います。

**図書館** はい。ありがとうございます。そうですね。対面朗読室について、もっとPRしてはというお話だったと思います。機会を捉えて、こちらの方も考えていきたいと思います。積極的にPRしなければいけないのかと思います。ご意見として、きちんと承らせていただきます。

**利用者** もう一ついいですか。こちらの練馬図書館に、視覚障害の方たちのための朗読サービスなどを行っているボランティアさんがどこか拠点として持っているというわけではないですか。

例えば、貫井図書館を拠点にしている大きな団体があって、他にもあちらこちらの図書館に、子どもの会だけではなくて、そういうハンディのある方たちのために活動していくという会の人たちが拠点として持っているということを知っているのですが、この練馬図書館にはそういう団体が行き来しているのか、どうなのか。どうでしょうか。

**図書館** 現状は、ないです。

**利用者** そうですね。だから、対面朗読室も情報が行き渡らないのかと思うのです。貫井図書館の団体などは大きく活動しているので、そういうところの情報が連絡されて、対面朗読室が使われ、なおかつ、もう一つ増えたみたいな、そう

いう効果があったりとか、あと、貫井図書館の裏には高齢者サービスの施設があるのです。昔は消費者センターだった建物など。

だからそこら辺との、すごい大きな連絡とかではないとは思いますが、でも、何となく使われているエリアがうまく緩く回っているのかという印象があったことがあるので、せっかく包括支援センターの方も来ていらっしゃるって、町内会の方たちはきっと高齢者の見守りとかもいっぱいなさっていると思うので、そこら辺の連携と言いますか、みんなが喜びあえるような緩い付き合い方で、ここにうまくたどり着くようなそんな感じがあるといいなと思います。

子どもの方は、赤ちゃん和妈妈という強い絆で、子どもは大きくなるしということもあって見える活動がいっぱいですが、弱い立場の方の活動はなかなか見えにくいと言いますが、気がつきにくいと言いますか、そのような感じをととも思います。

**図書館**      ありがとうございます。対面朗読室や、それ以外のサービスにつきましても積極的にPRして、あとは、地域の方々とのつながりを強くしていければと、そういったことをこちらでも努力していきたいなと思っております。

最後に、私から聞いてもいいでしょうか。実は、この練馬図書館ですが、あちこち見ていただくと、そろそろ古くなっているのがわかりますよね。大規模改修工事の計画はあるのです。もう何年か先ですが、今の予定としては、これをまっさらにして1から建て直すという、そこまでのものではなくて、大体、建物の大きさとか基本的な骨組みはそのまま残して大規模改修をすることになるのかなというのが、数年先の計画として区で持ち上がっているのです。

それで、皆さんに、何でもいいですが、どのような図書館だったら来てみたいとか、何か図書館にこのような設備があったらいいねとか、何か思いつきでいいので。

**利用者**      どこの地域でしたか、図書館の真ん中がくると空いて、周りが全部ホールで。

**利用者**      春日町ではないですか。

**利用者**      練馬区ではなくて、地方ですが、有名な方の建築で、子どももすごく

喜んで。あれはどこの地域の図書館でしたか。今、急にそのことを言われな  
いから、覚えてこなかったのですけれども。

利用者 天井まで本という感じで。練馬図書館は本の所蔵数は少ないですね。すぐ、  
光が丘にありますからと言われるのです。これで見ても、光が丘まで行かな  
いと充実しないのかなと思いましたけれども。

図書館 はい。わかりました。

利用者 面積は変わらなくても、本の置く場所をもっと考えた、もう少し明るい図書  
館をと思います。

図書館 なるほど。暗い印象ですか。

利用者 ですね。貫井などは、窓が全部開いていますよね、ガラス窓で。

図書館 なるほどね。

利用者 西武線沿いのところは。

図書館 もう少し、窓を大きくとか。

利用者 もっと広くできますよね。あれだけしかない。

図書館 なるほど。

利用者 いいですか。今の同じ話を、この間、光が丘でも話が出ていて、それで私が  
話したのが、このお部屋のことですけれども、先ほど、子どもの声がうるさ  
いとおっしゃっていた、それは同じような意見を持っている者がいたりとか  
して、そういう話をしたのです。練馬がそろそろ改修工事らしいということ  
で、仲間内の話なのですけれども、そのうちきっと、館長との懇談会もある  
から、そのときに届けようとみたい。もう一つ、準備してきたのですけれ  
ども。この部屋なのですが、先ほど、子どもの声がうるさいというご意見で、  
私たちも、きっとブックスタートの方とかも、感じているとは思うのですけ  
れども、子どもの声は本当にトーンが高いので遠くにまで飛んでしまう。こ  
の部屋自体が防音室にはならないのですか。

図書館 なるほど。まだ具体までにはいかないので、今日のご意見として。

利用者 そうですね。

図書館 例えば、ここをきっちりとした防音ということですね。

利用者 そうですね。ここで楽器を持ち込んでの活動ができにくいとあっていて、で  
も、防音になったら、そういう楽しいものを持ち込んで、子どもたちとのや

りとりももう少し、頻繁なもの、元気のいいものになるかなと。

でも、それを真正面が新聞閲覧台だということもあって、楽しいこともきつと少し消極的になるかなと。だけど、ここがきちんとそういう管理ができていたら、何か楽しいことを持ち込むことができると。そういう団体も増えていくのかと思ったので、ご提案として。

**図書館**      わかりました。例えば、関連して本当は子どもさんのコーナーとうまくわけられればいいのかというのでもあるのですけれども。この辺の防音とかの話ですね。他には何か。

**利用者**      同じようなことなのですからけれども、お子さんのコーナーがありますよね。あの辺もうるさいという、読み聞かせにしても何にしても、子どもは静かにしてられる子たちではないので防音設備がいいなというのと同時に、お子さん全てイコール本ではないですよ。お母さんたちは。

今、たこ公園がありますけれども、たこ公園は午前中は小さい子を連れた方たちがいられるのです。午後になると小学生が来るので本当に子育て世代は放浪して歩いているのです。

それで、豊玉の中には、私も、子育てのグループをやっているのですけれども、そういうグループが、さくら広場にあったりという、それが一つのマップになって、毎日やっていないので今日はここでというふうに、子育ての場所が遊ぶ場所がありますよというマップをつくったのです。

というのは、そこは別に図書館ではないので泣こうと騒ごうと全然大丈夫なのですが、そういう意味では、子どもを置く場所というのは、もっとかわいらしいデザインで、子どもたちがいても、皆さんにしかられないような。理解はすると思うのです。子育てはしょうがないよと。ただ、どこの図書館に行っても「シー」と言うのが基本ですから、そこにお子さんたちが集まるといのはなかなか難しいので、防音装置のものをつくるといいのではないかと思います。

私は豊玉集会所の会長をしておりますけれども、そこにあります、すぐ近く。あそこは防音設備などがあるのですけれども、残念ながらお年寄りのカラオケしか使っていません。本当に同じグループが毎日のように使っていたりとか。お母さんたちのグループもときどきバギーで来たりするのですが、



別にそれは音楽ではないので、騒いでも音がもれても構わない場所なのですが、そういうのも連携して、遊ぶのだったらそういうところもあるよというのも、我々もどんどんお知らせしていかなければいけないのでしょうかけれども。新しい場所としては、もう少し、お子さんのお部屋だよみたいな、かわいらしいお部屋で防音装置があるといいなと思います。

図書館

はい。どうもありがとうございます。どうぞ。

利用者

今の話を聞くと、図書館の概念は、我々の年代とはえらく違ってきて、どちらかというとコミュニティーの場というような概念が入り込んできているという感じがして、それも一つの方向性なのかなと。

今度は、ここを改修するのは一部建て組みを残してということですが、区長に要請して、更地にして3階建ての立派な建物を建てて、図書兼コミュニティーの場というようなことも一つの方向としては新しい時代に即応するのではないかという感じはします。

あと、こういう懇談会に毎年参加させていただいているのですが、大体、町会の方とか、各団体の責任者の方がほとんどで、高齢者の意見を発する場所のような感じがして、そうではなくて、懇談会と言うと、いろいろな年代の方が来ますので、活字離れをしている若い世代の方を取り組むことも含めて、もっと広い意味で、10代、20代、30代、40代、50代と、忙しい方は来られないかも知れませんが、そういう方にも声をかけてもらって、もう少し広い意見を取り入れたらどうかなと。また、そういう機会は多分、図書の方も設けているのではないかと思うのですが、そのような感じがします。

図書館

はい。ありがとうございます。

利用者

それに関連して、あと、幅広い意見ということなので。豊玉の近くの町会の関係の方が多いようなのですが、できたら練馬町会の方にも声をかけたいかがですか。

図書館

そうですね。

利用者

練馬の方はこちらに来ますよ。図書館に。豊玉の方だけが利用しているわけではなくて、どちらかというと豊玉と練馬です。そういう意味で幅広く。

図書館

ありがとうございます。

利用者 声をかけるのは自由だから。

図書館 本当に、おっしゃっていましたがけれども幅広い年代のご意見というのは本当にもっともです。30代、40代、50代の方々というのはお忙しいのでしょうか、なかなか難しいです。この懇談会も土曜日開催ということで、土日お休みの方であれば本当に皆さんにご参加いただきたいというのがあるのですけれども、なかなか難しいなと思います。

今後いろいろといい方法がないかどうか、今いただいた意見をきちんと受け止めさせていただいて、考えていきたいと思います。

利用者 館長がおっしゃったことも大事ですが、私は、中で働いてくださる図書館の職員さんたちが一番大事だと思うので、今は直営館ですが、このまま直営ということで専門の職員さんたちの方向でということ、ここでお願いしたいと思います。

利用者 私もそう思っております。

図書館 その問題はここではお答えできないので、ご意見はしっかり承ります。

図書館 お時間となりました。最後、私に変な質問をしてしまって申し訳ありません。参考意見として聞いてみたかったのです。

今日は、どうも本当に貴重なお時間をいただきまして、皆様ご参加いただきましてありがとうございました。今日いただいたご意見をきっちり受け止めて、何でもかんでもできますというのは難しいですが、できることからきっちりと考えていきたいと思っております。参考になりました。これで懇談会を終わらせていただきます。本当にありがとうございました。